

人口減少社会の到来と臨床検査技師

代表理事会長 宮島 喜文

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2019年12月に、中国武漢市で感染者が報告されてから、わずか数カ月ほどの間に人類を脅かす感染症のパンデミック（世界的大流行）となった。人類は過去にもさまざまな感染症と戦ってきたが、感染症をもたらす病原体や対処方法がわかってきた現代においても、この度のパンデミックに対しては医療崩壊を引き起し、「新興感染症」や「再興感染症」に対するリスク管理と危機管理の甘さを露呈する結果となった。わが国においても度重なる大流行に対して、「緊急事態宣言」や「蔓延防止等重点措置」などを発令し、その都度感染対策を講じてきた。しかし、その結果、社会・経済活動に大きな打撃を受けることとなった。

流行当初、我が国では新型コロナウイルス感染者の確定の根拠となる PCR 検査体制が他国と比べ、十分でないという厳しい指摘が続出し、当会としても関連団体と連携を取りながら対応に追われた。当初は検査を行う人材、装置、試薬、資材等の不足による検査の遅れが問題となりましたが、関係各所のご努力によって徐々に充足されている。

このような事態の中、我が国で唯一の臨床検査技師の学術・職能団体である本会では、国に対して PCR 検査体制やワクチン接種の拡充等に関する提言や要望を行うとともに、それら実務に際して必要となる教育研修を緊急に準備し開催した。その結果、教育研修を受けられた多くの会員の方々が、本業務に従事し、診療機関や登録検査所のみならず、地方自治体の設置した PCR 検査やワクチン接種センターで、検体採取や PCR 検査・抗原検査、ワクチン接種の担い手として活躍することができた。国難とも言えるパンデミックに臨床検査技師として一丸となって立ち向かえたことは、今後の礎に繋がるものと思われる。

2021年末に新型コロナウイルスの変異株・オミクロン株（4つの系統 BA.1、BA.1.1、BA.2、BA.3 に分類）が確認されて以来、本変異株による爆発的流行が世界規模で続いている。夏季を迎えて感染者数が日々減少に転じてはいるが、まだ予断が許されない状況である。今後の動向にも注視しつつ、3年間で培った経験を基に、適切な対応を図っていくこととする。

一方、我が国では、過去経験したことのない人口減少社会が到来し、構造的な課題が生じつつある。我が国経済の構造が予想以上の速さで変化し、中長期的な経済・社会構造の変化が起こっている。医療界においても、医療の需要と供給とのバランスが崩れ、医療従事者の雇用環境もさらに厳しくなることが予想される。医療従事者の高齢化も進行し、円滑な事業承継や起業・創業などの新陳代謝が図られなければ、業界の衰退に拍車をかける恐れがある。特に、わたくしども臨床検査分野に目を向けると、科学技術の進歩が目覚ましく、臨床検査の現場にロボットや人工知能（AI）を搭載した検査装置の導入が見込まれている。このように人口減少に伴う臨床検査の需要の減少と、更なる自動化の流れは臨床検査技師にとって、業務内容や雇用環境において、重大な局面を迎える覚悟をしておかなければならない。

私が会長に就任してから過去10年を振り返れば、検体採取や精度保証、そしてタスク・シフト/シェアの推進など、幾つかの法整備が進み、現場での実践段階に到達した。そして、新型コロナウイルス感染症対策でも臨床検査技師として大きな役割を果たし、社会的な認知度も上昇した。しかし、時代は刻々と変化している。それに沿って、私達、臨床検査技師は常に進化し続けなければならない。

今こそ、ビッグデータや AI による第4次産業革命と、最新バイオテクノロジーの融合した第5次産業革命に突入する2040年を目指し「臨床検査技師の未来像」を考える時が来ている。大きな時代の変化の中で持続可能な臨床検査技師像を、会員の方々と一緒に考えてみたい。